

令和7年度 旭川市農業センター試験課題等一覧

<農業センターほ場試験>

No.	課題名	年度	作型			試験の概要	関係先等
			播種	定植	調査・収穫		
1	夏秋トマトの品種比較試験	新規	3月17日	5月上旬	7月上旬～10月下旬	市内の夏秋どり作型では‘麗月’（柗サカタのタネ）が栽培されているが、同社から夏秋向け品種‘れおん’が発売されたことから、‘麗月’との比較により特性を調査し、当地への導入の適否を検討する。 <供試品種：麗月、れおん>	旭川青果物生産出荷協議会 トマト部会
参考1	夏秋トマト栽培における着果制限の効果確認調査	新規	3月17日	5月上旬	7月上旬～10月下旬	市内のトマト栽培においては、摘果を行わない栽培方法が主流であるが、着果制限することで果実の品質や収量を向上させる効果があるといわれていることから、下段の着果制限が生育に与える影響等について調査する。 <供試品種：麗月、れおん>	旭川青果物生産出荷協議会 トマト部会
2	夏秋ナスの養液栽培試験	R5～	—	5月中旬	6月中旬～10月下旬	他産地のナスの養液栽培では、収量性の向上を目的とした接ぎ木栽培が普及していることから、‘PC筑陽’を用いて台木の特性や給液濃度の違いが収量及び品質に与える影響を調査する。 <供試品種：(徳木)PC筑陽 (台木)カイゼル、TTM-079>	旭川青果物生産出荷協議会
参考2	クラウド型複合環境制御装置を用いたナスの養液栽培実証調査	新規	4月9日	6月中旬	7月中旬～10月下旬	近年増えつつある自作不要でクラウド型の複合型環境制御装置を用いてナスの養液栽培を行い、当該装置の適応性について検証し、生産現場への普及性に係る資料を得る。 <供試品種：PC筑陽>	
3	サヤインゲンの品種比較試験	R6～	①5月下旬 ②6月下旬	—	①7月中旬～ ②8月中旬～	市内のサヤインゲン基幹品種‘ピテナ’は、高温期における収量及び品質の低下が課題であることから、前年に引き続き、高温期の栽培に適した品種を検討する。 <供試品種：ピテナ、キセラネオ、恋みどり>	旭川青果物生産出荷協議会 豆部会
参考3	サヤインゲンにおける緩効性コーティング肥料の施用効果確認調査	新規	①5月下旬 ②6月下旬	—	①7月中旬～ ②8月中旬～	果菜類等の施肥の省力化や夏バテ対策のために利用される緩効性コーティング肥料について、サヤインゲンの慣行栽培と比較する調査を行い、施用効果を確認する。 <供試品種：ピテナ>	
4	低温期におけるリーフレタスの品種比較試験	新規	①2月14日 ②9月上旬	①3月13日 ②9月中旬	①4月下旬 ②10月下旬	市内では春作型（4～5月どり）及び秋作型（10～11月どり）において‘マリノ’を基幹品種としているが、令和7年度で種子の供給が停止されることから、代替品種の選定に向けた検討資料を得る。 <供試品種：マリノ含む6品種>	旭川青果物生産出荷協議会 サニーレタス部会
5	高温期におけるチンゲンサイの品種比較試験	新規	①6月上旬 ②6月下旬	①6月下旬 ②7月中旬	①7月下旬 ②8月中旬	市内のチンゲンサイ栽培では、高温期において出荷後のとろけや黄化が課題となっていることから、黄化の抑制が期待される濃い葉色で、耐暑性や収量性の高い品種を検討する。 <供試品種：良雅含む6品種>	旭川青果物生産出荷協議会 チンゲン菜部会
6	サツマイモ苗の増殖実証試験	R5～	—	(ポット苗) (種芋) 4月上旬	6月上旬	R6年度はポット苗と切り苗を親苗として省力的な切り苗の増殖方法について検証したが、R7年度はポット苗からの増殖率を更に上げるために2次増殖を取り入れた無加温での栽培法を検証する。加えて、親苗代のコスト低減が見込まれる種芋からの増殖方法についても検証する。 <供試品種：シルクスweet®>	J Aあさひかわ、J A東旭川、J Aたいせつ
7	下水汚泥焼却灰由来肥料の効果検証試験	新規	—	6月上旬	10月上旬	下水処理センターでは、下水汚泥資源の肥料化を検討しており、その一環として汚泥焼却灰由来の肥料を試作し、菌体りん酸肥料として公定規格による肥料登録を目指している。そこで、サツマイモ栽培における当該試作肥料の効果等を検証する。<供試品種：シルクスweet®>	下水処理センター
8	シャインマスカットの栽培試験	R3～	—	(R3. 5. 11定植)	10月上旬	J Aあさひかわが新規作物として検討している‘シャインマスカット’について、課題となっている凍害対策について検証するとともに、定植5年目の栽培管理について検討する。また、収穫した果実の収量性や果実特性を調査する。	J Aあさひかわ
9	ブロッコリーの直播栽培試験	R5～	6月上旬	—	8月中旬	過去2か年の試験で当地における直播栽培の実施可能性が示されたが、生育初期における病害虫防除及び雑草管理の確立が課題であることから、農業使用の効果を確認するための栽培実証試験を行う。 <供試品種：アーリーキャノン>	J A東神楽

<展示栽培>

No.	課題名	年度	作型			試験の概要	関係先等
			播種	定植	調査・収穫		
展示1	ハウス栽培における生分解性マルチの効果実証展示	新規	3月中旬	5月上旬	7月上旬～10月下旬	環境負荷の低減や省力化に向けた効果が期待される生分解性マルチについて、ハウス内での長期どり作物への使用適性を確認するための実証展示を行う。 <展示品目：大玉トマト‘麗月’> <生分解性マルチ：ピオフィレックスマルチプラス>	J Aあさひかわ
展示2	下水汚泥焼却灰由来肥料を用いたソバの栽培展示	新規	5月下旬～6月上旬	—	9月上～中旬	試験番号7「下水汚泥焼却灰由来肥料の効果検証試験」に併せ、市内でも栽培されているソバを試作する。	下水処理センター